

上野の森に「広島・長崎の火」を灯しつづけて20年
うたとトークでつづる きのう きょう そして明日



核兵器をなくし
永遠に平和を誓う
広島・長崎の火
を灯しつづけて

2011非核・平和をうたうつどい

7月18日(月・祝) 13:30~16:00 日比谷公会堂 おとな1000円
こども 500円

合唱構成

「ぞうれっしゃがやってきた」

原作・小出 隆司 指揮・掛川 陽子
作詞・清水 則雄 ピアノ・武藤 栄子
作曲・藤村 記一郎 合唱・東京ぞうれっしゃ合唱団合同

トーク

広島・長崎の原爆被爆者
東京大空襲犠牲者 沖縄戦犠牲者
中国「残留孤児」
全国で「原爆の火」を
灯しつづけているみなさんなど

カンタータ

「この灯を永遠に」

脚本/作詞/作曲・安藤 由布樹
指揮・安藤 由布樹
ピアノ・長久 真実子 ホルン・慶野 未来
合唱・カンタータ「この灯を永遠に」をうたう合唱団

後援 ● 台東区・千代田区・港区・福岡県八女市

主催 ● 2011非核・平和をうたうつどい実行委員会 連絡先/小野寺協同法律事務所:文京区本郷3-43-14-602 電話03-3818-6151

あなたもぜひご参加を

上野東照宮の境内には20年間「広島・長崎の原爆の火」が灯っています。この「火」は、福岡県星野村出身の兵士、山本達雄さんが広島で被爆死した叔父の「形見」として、焼け跡に残っていた火を懐炉に移し持ち帰った「原爆の火」と、長崎の原爆瓦から採火した「長崎の火」を合火したものです。

山本さんが「恨みの火」として灯し続けた「火」は、核兵器廃絶と平和への山本さんのつよい願いのなかで「平和の火」になり、星野村が受け継ぎ、灯されています。

「広島・長崎の原爆の火」は、上野の他に国内の34カ所とニュージーランドに灯されています。

核兵器のない、子どもたちの未来に平和が輝く世界、そのひとつのステップになるように、上野の森に「広島・長崎の灯」を灯しつづけてきた20年間の運動を記して、私たちは「2011非核・平和をうたうつどい」をひらきます。

ぜひ、あなたも、参加してください。



合唱構成

「ぞうれっしゃがやってきた」

原作・小出 隆司
作詞・清水 則雄
作曲・藤村記一郎

73年前、名古屋の東山動物園に暮らした4頭のぞうのお話です。

戦争中ほとんどの動物が殺される中、生き抜いたぞうとぞうを守った人たち。

戦争が終わり、「本物のぞうがみたい」と声をあげた東京の子どもたち。

その熱意が大人たちの心を動かして各地の子どもたちを東山動物園まで運ぶ特別仕立ての「ぞうれっしゃ」が走るようになったのです。

この事実をもとに合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」がつけられました。

1986年の初演以来、子どもの幸せと平和



を願うたくさんの方々によって全国各地でうたいがられています。

カンタータ

「この灯を永遠に」

脚本 / 作詞 / 作曲
安藤由布樹

1990年8月、上野東照宮境内に、「広島・長崎の火」が灯されました。この“火”を灯す運動の中から、「山本達雄さんの“火のこころ”を世界で唯一の被爆国の私たちが歌で広げよう、なんとしても“火”の歌を創ろう」と、声があがり、翌年、4人の独唱と重唱、そして大合唱と語りを織り交ぜた全10曲、55分なる合唱曲 カンタータ「この灯を永遠に」(作詞/作曲・安藤由布樹)が完成しました。

1991年8月の星野村での初演以来、合唱団「この灯」(旧「この灯を永遠に合唱団」)を中心に、今日まで全国各地で数十回演奏されてきました。

福岡県八女市星野村で毎年行われている8月6日の「平和祈念式典」には星野中学校の全校生徒が「この灯を永遠に」を歌い継いでいます。